

**令和7年6月20日（金曜日）**  
**新市立高等学校設置特別委員会**  
**議会会議室**  
**出席委員**

竹中隆一、蔭山敏明、白井義一、西本眞造、  
山口 悟、石堂大輔、萩原唯典、大西陽介、  
妻鹿幸二、牧野圭輔、金内義和、谷川真由美

**開会** **9時57分**  
**教育委員会** **9時57分**  
**報告事項説明**

・（仮称）姫路市立高等学校の開校に向けた取組について

**質問** **10時03分**

（質問）

グローバル教育フェローに山内周司氏が就任したが、なぜ同氏に委嘱したのか。

（答弁）

教育長や市長部局のこれまでのネットワークから山内氏の名前が挙がったものである。これから新しい学校でのグローバル教育を具体的にどう進めていくのかを考える中で、教育委員会の内部だけでは難しいということもあり、専門的な知見のある同氏に委嘱した。

（質問）

同氏の報酬はどのようになっているのか。

（答弁）

同氏には報酬を支払っておらず、交通費等も含め無償である。

（質問）

ボランティアのようなものと考えてよいのか。

（答弁）

同氏は日本人の海外留学の支援を行っており、日本人の海外留学が減少している状況に危機感を覚えているとのことである。

本市が今後海外を意識したグローバル教育を進めていくことに共感し、無償で就任されたものと考えている。

本市の状況を伝えることになるため、情報セキュリティなどの観点も考慮し、姫路市グローバル教育フェローとしてお願いすることになったものである。

（質問）

委嘱式が令和7年4月23日に行われているが、同氏への委嘱はいつから計画していたのか。

（答弁）

同氏とは令和6年度から意見交換を行っており、令和7年3月の本委員会でも報告したいと考えていたが、具体的な内容の調整が間に合わず4月以降となったものである。

（質問）

就任に際して契約書は交わしたのか。

（答弁）

交わしていない。

（質問）

任期は定めているのか。

（答弁）

令和7年度から3年間である。

（質問）

なぜ3年間としたのか。

（答弁）

令和8年度の新市立高校の開校前後を含み、ある程度カリキュラムが固まる大事な過渡期の期間と考えているためである。

（質問）

同氏は留学生の仲介等の仕事をしているとのことだが、今後市立高校の生徒は同氏の会社を通じて留学することになるのか。

（答弁）

同氏の会社は、市が行いたい内容と同じような業務を行っているが、留学先の現地の状況を教えてもらえることはありがたいと考えている。

今後留学に関して具体的に検討する際には、子どもたちの留学先の選択肢を増やせるよう積極的に進めていきたいと考えており、同氏の会社に限定するわけではない。

（質問）

カリフォルニア州訪問は予算編成時から決まっていたのか。

（答弁）

そのとおりである。

（質問）

実際にかかった費用は幾らなのか。

（答弁）

海外ではクレジットカードでの精算になり、日本円への換算等、支出の最終調整を行っているところである。

(質問)

予算の段階では幾らくらいを見積もっていたのか。

(答弁)

当初はアメリカだけではなく、ほかの国への視察も想定しており、視察に係る全体的な予算としては約790万円を計上していた。

しかしながら、円安や物価高騰によりアメリカだけでもある程度の経費がかかっている。

(質問)

令和7年度中に別の場所への視察を予定しているのか。

(答弁)

現状では予定していない。

(質問)

飛行機のクラスは何を利用したのか。

(答弁)

市の規定に従い、教育長はビジネスクラスのある飛行機についてはビジネスクラスを利用した。その他の職員はエコノミークラスである。

(質問)

この訪問による成果はどのようなものがあるのか。

(答弁)

日本では規律を教えることが当たり前であるが、主体性を育むということが本当にどういうことなのか海外の学校を視察することで体感できたというような報告を教員から受けている。報告会等も順次行いたいと考えている。

(質問)

実際に訪問した教育長からこの場で感想も含めて説明してもらいたい。

(答弁)

グローバル教育を行う中で、生徒たちには本市の外の世界を知るという経験をできるだけ多くしてもらいたいと考えている。そのために、まずは教員に視野を広げてもらうきっかけにしたいと訪問したものである。実際に視察した教員が感じたものもとても大きいと思うが、それだけでなく、全ての生徒たちや教員が外の世界に出られるわけではないため、本市にいな

がら外の世界とどうつながるのかということの地ながらも今回できたのではないかと思っている。

(質問)

カリフォルニア州も含めて、留学生に係る情勢は不安定であるがどのように考えているのか。

(答弁)

留学に行く際には生徒の安全安心が最も大事であるが、海外に出ること自体を萎縮しないようにしたいと思っており、安心して送り出せるところがどこなのか今後も模索するためにも、今回の視察で現地を知ることができたことは重要であったと考えている。

(質問)

市立3高校はそれぞれ姉妹校があり交換留学等もされていたが、今までの姉妹校交流のつながりは見直すのか。

(答弁)

姉妹校には市立高校の再編をすることを伝えているが、このたびのマーセッド・カレッジも含めて生徒たちの選択肢を増やしたいと考えており、これまでの交流も生かせればと考えている。

(質問)

新設校でのグローバル教育とは具体的にどのようなことをしようと考えているのか。

(答弁)

多様性が新設校の教育のポイントになると考えており、海外の状況を知り固定概念を覆すためにも今回教員も視察に参加したものである。

生徒についても、全員が海外留学に行けるわけではないが、オンラインでの受講など学校の中で体感できる環境がつかれないか今後具体的に検討していく。

(質問)

新設校で提供するグローバル教育の内容については既に固まっているのか。

(答弁)

教育課程は既に公開している。英語では、英語に触れるような科目もあれば琴丘高校の国際文化科のように専門学科に置くような科目設定もある。現在、具体的にシラバスをつくる、教科書を選定するという段階に入っており、探究科目でのグローバル探究等もイメージしながら進めている。

(質問)

グローバル教育ということで外の世界を見ることも大事だが、日本や本市の歴史を生徒たちに学んでもらうことも大事だと思うがどうか。

(答弁)

指摘のとおりである。自分のまちのことを外部に向けて話せることはとても大きなことだと考えており、総合的な探究の時間の中で地域探究、姫路学というものをしっかりと取り入れていきたい。

(要望)

地元についての教育を行い、自分たちのまちについて発信できた上で外の世界を学ぶようにしてもらいたい。

(質問)

姫路高校の校舎を改修し、普通教室を1フロアに9教室配置するとのことだが、令和8年度は同じ校舎を新設校の1年生と、姫路高校の2、3年生が使用することなのか。

(答弁)

そのとおりである。階ごとにそれぞれの学年が使用して異なる高校の生徒が同じ校舎に共存し、一部の探究学習や学校行事などは一緒に行うこととなる。

(質問)

同じ敷地内に同じ種目の部活動が2つ存在することになり、グラウンドや体育館、外部の施設を利用することであったが、どのように調整しているのか。

(答弁)

姫路高校で行っている部活動をベースにする予定であるが、飾磨高校及び琴丘高校でしか行っていない部活動に関しては実際に入学した生徒の希望による部分も大きく、決定時期も含めて検討中である。

できるだけ多くの部活動を設定するため部活動関係の教員と協議を進め、外部施設の活用も含めた調整を行っている。

(質問)

姫路高校の校舎改修費用は幾らくらいかかるのか。

(答弁)

契約金額は1億1,660万円である。

(質問)

議会には報告しているのか。

(答弁)

議会に議案として提出するものは予定価格が1億

5,000万円以上となっているため、議案の提出は行わず契約課での一般競争入札を実施した。予算書には校舎整備事業費として記載している。

(意見)

議案の対象となる金額以下であっても、1億円以上の大きな契約であるなら報告事項としてもよいのではないか。特別委員会を設置した理由をしっかりと考えてもらいたい。

(委員長)

議会の議決に付すべき契約として定められている金額以下であるので、質問があれば答弁するということでよいと思う。

(質問)

オープン・ハイスクールに市立3校の教職員や生徒が参加することだが、新設校のプレゼンテーションはどのように行うのか。

(答弁)

開催場所がアクリエひめじとなることから、高校の施設を見たいとの要望に応えるために、まずは姫路高校の施設や生徒を撮影した動画を上映しようと考えている。

あくまで新設校のオープン・ハイスクールであるため、新設校の内容が中心となる。市立3校合同生徒会の生徒たちに制服の選定などに関わってもらっているため、例えば彼らに制服の紹介などをしてもらい、市立高校の雰囲気を感じてもらえればと考えている。

(質問)

新設校がまだできていない中で様々な質問に対して市立3校の生徒が答えることになると思うが、参加者がどのような教育を受けられるのか理解できるようにするために、動画の上映以外にどのようなことを考えているのか。

(答弁)

どうしても新設校の説明の際に具体的な内容が見えづらい点もある。どういった話し方をすれば子どもたちに伝わるのか今も議論しているところである。

(要望)

今の市立3校の生徒が後に託すことのできるよう、また、中学校の生徒や保護者が行きたい、行ってよかったと思えるような学校となるよう取り組まれない。

(質問)

新校舎の建設予定地である旧市場跡地の用地取得の状況はどうなっているのか。

(答弁)

5.8ヘクタールの土地のうち、以前から市が所有している土地、既に取得が完了した土地と市場の解体が終わる9月末までに取得する土地を合わせて、全体で約8割から9割の土地について契約済みである。

(質問)

旧市場跡地に建設する新校舎が開校するのはいつぐらいを目安としているのか。

(答弁)

開校時期は生徒にとってもセンシティブな内容であるため、令和7～8年度に計画を策定する中で検討、公表していきたい。

**教育委員会終了** 10時43分

**正副委員長退任挨拶** 10時43分

**閉会** 10時45分